

西六と四ツ橋

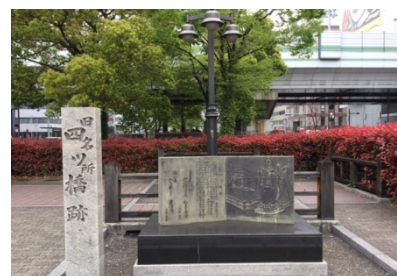
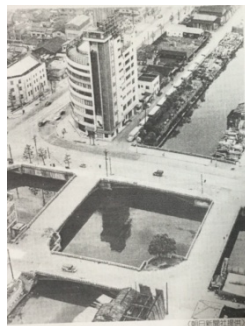
西六さいろくというのは、西区の行政区画のうち、6番目に該当することから付けられた名前
で、旧町名でいうと、立売堀の南の一部と、新町全部と、西長堀の北半分から構成されて
いる（『西六いまむかし 西六連合振興町会 30周年記念誌』1986年）。

地図の立売堀川と西長堀
川の間で、新鯉座橋と西長
堀橋の間あたりでないだろ
うか。西長堀川は埋め立て
られ、現在は長堀通となっ
ている。地下鉄御堂筋線の



心斎橋駅で降り、長堀通を西に向かって歩き、新鯉座橋を左折すると大阪市立中央図書館に着く。今は高層ビルに囲まれた味気ない通りだが、昔は西長堀川に多くの橋が架かり、風情があっただろう。

多くの橋のなかでも有名なのが、
写真の四ツ橋である。西横堀川と西
長堀川が交差していた地点で、西横
堀川に架かっていた上繫橋・下繫橋、
西長堀川に架かっていた炭屋橋・吉
野屋橋の四つの橋が正形状になっ
ていたので、総称してつけられた名
前である。広い道路の中央に「旧名所
四ツ橋跡」。高速道路下には、
二つの句碑があった。案内板には次のように記されていた。



「四つ橋は 大阪人にとってなつかしい橋である ここより東の
阪神高速道路下と長堀通りが交差する所を囲むように方形に架かっ
ていた 西横堀川 長堀川の埋立てによって橋としての歴史を終



え 地名として名を残すのみとなったが 橋を愛する人々の心に生き続けている この
四つ橋を偲ぶよすがとして整備を行った 照明柱を中心に四つの橋を配置し 江
戸時代の木橋を表現するため 橋の欄干と床面は木製とし 川面は砂利を埋めた床で
旧橋の親柱に埋込まれていた橋名板を照明柱の台座に残すとともに橋長は約一〇分の
一 幅員は約六分の一として 正面には顕彰碑を配置している

涼しさに 四つ橋を四つ わたりけり 来山

後の月 入りて貌よし 星の空 鬼貫

これらの句碑は 変わりゆく時代の中 四つ橋を静かに見守っている」

(2018年4月10日)